

# 上陸後の戦斗及退路遮断

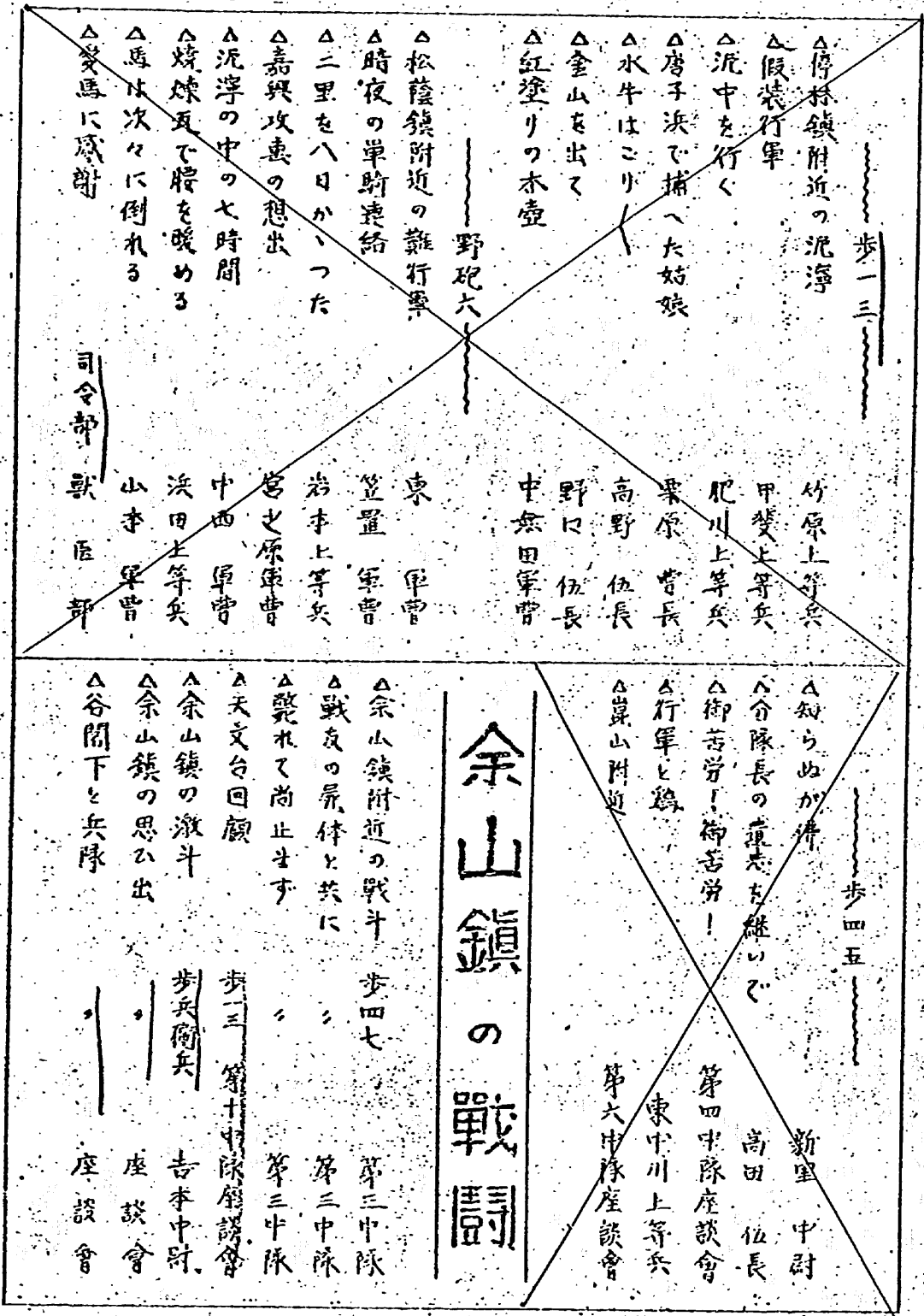
## 歩四七

△降雨と泥濘  
 △作戦全買クリークに流さる  
 △救命胴衣で救はる  
 △他師団の將校に煙草を貰ふ  
 △機関銃を探し求めて  
 △追軍前進に際して  
 △生命の恩人  
 △味噌遣ひ  
 △決死の彈藥輸送  
 △残留者を指揮して  
 △土左衛門のなげ損ひ  
 △小銃一挺で部隊追及  
 △砲彈藥を殺ではこぶ  
 △夜軍機と共に鉄路遮断

加藤 軍曹  
 成松 軍曹  
 黒沢 軍曹  
 矢野上等兵  
 尾川 軍曹  
 鈴木 軍曹  
 仲村渠軍曹  
 荒金上等兵  
 山本上等兵  
 阿部 曹長  
 高木上等兵  
 藤井 軍曹  
 上段 軍曹  
 藤井 軍曹

△七百名の敵を捕へる  
 △免し支那の第五列  
 △金山の戦斗  
 △黄浦江の殲滅戦  
 △黄浦江附近まで  
 △張庄附近の戦斗  
 △陸軍刑法で處罰するも  
 衛生隊 野戦病院  
 △ぬかるみ地獄  
 △名菜鍋の入りか  
 △泥濘をゆく  
 △思ひ出の水路行  
 △ボクろ子と大尉殿  
 △苛心の給水班  
 △人情不人情  
 △悪路の患者護送  
 △恐るべき病魔  
 △連絡も食料もない

羽矢 軍曹  
 首藤 伍長  
 中村 軍曹  
 宗 上等兵  
 第十二中隊座談會  
 孔井 軍曹  
 矢野上等兵  
 野戦病院  
 第二野病  
 松下 伍長  
 衛生隊  
 赤武 中尉  
 第三野病  
 上野上等兵  
 高木 幸雄  
 第四野病  
 徳田上等兵  
 赤條 少尉  
 第二野病  
 西崎 軍曹  
 第一野病  
 迫面 軍曹  
 赤池 軍曹  
 山野 軍曹



# 青浦城攻勢

歩四七

- △日章旗を仰ぐまで
- △肉弾の勝利
- △何んといふ豪膽不散
- △竹原次元弁候
- △小代次死弁候
- △敵傷兵に絶薬
- △青浦城外急念の一夜
- △荒鷲の協力に又前進
- △勇政が部下の誌
- △志賀小隊長最後の言葉
- △志水ら水め事
- △クリークに引摺り込まれる

- 吉田 大尉
- 安東上等兵
- 秋吉 軍曹
- 松田上等兵
- 佐藤上等兵
- 須川 伍長
- 向 軍曹
- 渡辺上等兵
- 山際 中尉
- 藤元上等兵
- 泉 伍長
- 故川野 伍長

歩二三

# 蘇州河から崑山附近まで

歩二三

- △青浦城に至る苦戦
- △我先を制して
- △青浦城外立橋上の奮戦
- △重傷を負へど尚進兵
- △無我無中だった
- △痛恨の友軍機の爆発
- △嘘のやうな話
- △悲ひ出三忍
- △死んだ筈の敵が反撃
- △蘇州河一番乗り
- △鍋墨の姑娘
- △崑山で中隊に追及
- △平野鎮支隊

- 十亀 軍曹
- 川野上等兵
- 紺屋 准尉
- 松山上等兵
- 紺屋 准尉
- 紺屋 准尉
- 吉田 軍曹
- 甲斐軍曹上等兵
- 木上 軍曹
- 酒井 准尉
- 河野上等兵
- 後藤上等兵
- 第十一中隊

歩四七

△白鶴港鎮に突入

東思訓上等兵

△鎮剣を刺され、逃げける敵

白中 軍曹

△蘇州河の送る敵

中村 軍曹

△彈雨下舟を奔つて帰る

永田 軍曹

△蘇州河渡河戦

羽田野軍曹

△支那語で危険を告げる

入学 曹長

歩兵衛兵、騎兵衛兵

△上陸より松江附近まで

騎兵衛兵 座談會

△蘇州河より小池まで

歩兵衛兵 吉本中尉

△撤去日勤軍で小池参謀殿を護る

司令部 白肌全澤

△子回副官殿を護衛に行く

歩兵衛兵 丸岡軍曹

歩一三

△蘇州河から部隊進及

加惠 伍長

△痛快な激戦

荒木 軍曹

△蘇州河血染の握り飯

倉本 軍曹

△箕山より南京へ

第十中隊原談會

△戦いの跡を見つ、

渡辺 軍曹

△死体の浮いた河水で飯を炊く

甲斐上等兵

南京に向ふ急行軍

輜重六 野戦病院

△砲台先進物資

輜重六 東 一等兵

△彈藥車前へ

下川上等兵

△燃えはじり薪

松永 誠一

△瀧水橋を壊して

第三野病 朝留 伍長

△隊長殿も患者の小使の世話

第四野病 横手 少尉

△英靈よ安らかに

水田上等兵

△臭い敵

第一野病 迫田 軍曹

△志を得ぬ自轉車行軍

長田 軍曹

△豪快な敵營七骨捕獲

山村 軍曹

△ボケツトに大勢を誘込んで

輜重六 赤田 伍長

△居穴く愛魚三激だ

先崎 利英

△手綱片手に握り飯 彌重六 岩城 武雄

歩四五

△徹夜行軍七十里 久保團軍曹

△夜行軍ユ一モア 日笠 伍長

△あの時ばかりは眠かつた 段原 軍曹

△南京が陥ちては大変 遊原 軍曹

△眠さ忘れの妙案 新里 中尉

△辛い急行軍 四元 軍曹

△急行軍持論抄 第十一中隊座談會

△河南店の想出 第十一中隊座談會

△愚とリ 下松 曹長

△チヤン浦の利月 久保 軍曹

野砲六

△南京へ南京へ 中村上等兵

△断くして巨弾は飛ぶ 久木山年曹

△関宗澤のこと 藤崎 軍曹

△支那酒で癒す 岩谷 軍曹

△裝甲車隊の危難 瀧口 准尉

△水牛異常 石崎 中尉

△拾ったカシノホリで元氣百倍 富徳一等兵

△病馬を曳いて 坂下 伍長

△睡つて部隊に送れる 柴立 軍曹

△隊長殿の神々しい後姿 福富 軍曹

△痛馬と共に急行軍 田中 伍長

△糧秣を背負ひ急行軍 池田上等兵

歩四七

△南京攻虫前のコルラ 吉田 伍長

△打港鎮討進 第五中隊座談會

△南京に向か一日 加藤上等兵

△嘉善の想出 藤川 軍曹

△敵弁は危険です 左部上等兵

△嘉善一週間の焦慮 長野 明春

△最後の頑張り 倉迫 少尉

歩兵衛兵 騎兵衛兵

△南京への急行軍 歩兵衛兵 産談會

△南京へ向ふ 騎兵衛兵 産談會

△威遠の司令部 歩兵衛兵 青本 中尉

色は黒いか

一色は黒いか血は赤い

九州産物の糞掛入

胸を叩けば一と押しに

忽ち落す城の敷

あ、日本一の六師團

二家も命も君のため

捧げつくした武士の

汗にまみれた軍服に

匂ふ道辺の草の花

あ、日本一の六師團

三吹雪の原に寝もやらぬ

急進軍の幾夜

凍る手先に鉄執れば

線身に熱い血が滯る

あ、日本一の六師團

四膠間あぐる城の上

一番葉のほまれにも

功誇らず戦友を

思ふ健毛の一とシグク

あ、日本一の六師團